

問1 律令制度のもと、都から地方へ行政命令が伝えられ、民衆に届くまでの仕組みについて説明した文として、最も適切なものはどれですか。

(2025年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 幕府から派遣された守護が、現地の役人である国司を指揮し、荘園領主を通じて民衆に命令を伝達した。 | 2. 地方豪族が都へ赴いて国司となり、天皇から直接受けた命令を、現地で採用された地頭を通じて民衆に伝達した。 | 3. 中央の役人である郡司が、各地方に置かれた国司に命令を伝え、そこから代官を通じて民衆に伝達された。 | 4. 中央から派遣された国司が、地方豪族から任命された郡司に命令を伝え、さらに里長などを通じて民衆に伝達された。 |
|--|--|---|--|

問2 奈良時代の聖武天皇の時代を中心に、仏教の力で国家の安定を図る「鎮護国家」の思想に基づいて発展した文化があります。この文化は、遣唐使によってもたらされた唐の進んだ制度や、シルクロードを経由した西アジアの文化の影響を強く受けているのが特徴です。この文化の名称と、その国際的な性格を象徴する施設についての説明として最も適切なものはどれですか。

(2023年 滋賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 飛鳥文化と呼ばれ、法隆寺の建築に見られるように中国や朝鮮半島の技術が取り入れられた。 | 2. 弘仁・貞観文化と呼ばれ、最澄や空海が伝えた密教の影響を受けた仏像が多く作られた。 | 3. 国風文化と呼ばれ、日本独自の美意識に基づいたかな文字や物語文学が発展した。 | 4. 天平文化と呼ばれ、正倉院にはペルシャ風の器物などの国際色豊かな宝物が納められた。 |
|---|---|--|---|

問3 聖武天皇が鎮護国家の思想に基づき、国の安泰を願って実施した具体的な政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。

(2021年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------|-------------------------------|----------------------------|------------------------------|
| 1. 藤原京から平城京への遷都と、律令の完成 | 2. 全国への国分寺・国分尼寺の建立と、東大寺での大仏造立 | 3. 遣唐使の派遣による唐の文化の導入と、仏教の禁止 | 4. 三世一身の法による土地私有の公認と、班田収授の徹底 |
|------------------------|-------------------------------|----------------------------|------------------------------|

問4 奈良時代において、仏教の力で国家の安定を図る「鎮護国家」の思想に基づき、全国に国分寺・国分尼寺を建立することを命じた人物は誰ですか。また、その人物の遺品が納められ、国際色豊かな天平文化を今に伝える、奈良市に位置する正倉院との関わりが深い人物を次の中から選びなさい。

(2022年 京都府公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 後三条天皇 | 2. 桓武天皇 | 3. 推古天皇 | 4. 聖武天皇 |
|----------|---------|---------|---------|

問5 8世紀初めに、古くから伝わる神話や伝承を整理し、天皇による国内支配の正当性を示すことを目的として編纂された歴史書を選びなさい。

(2015年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 風土記 | 2. 古事記 | 3. 日本書紀 | 4. 万葉集 |
|--------|--------|---------|--------|

問6 奈良時代の文化を象徴する建造物の一つに、東大寺の正倉院がある。この建物にペルシャやインドの影響を受けた工芸品が多数納められている理由として、当時の日本の対外関係をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれか。

(2024年 福井県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 仏教の伝来とともに、百済（くだら）から多くの渡来人が工芸技術を直接日本へ伝えたため | 2. モンゴル帝国によるユーラシア大陸の統一により、陸路での貿易がかつてないほど活発になったため | 3. 遣唐使が、唐の都である長安に集まっていた西アジアや中央アジアの文物を日本に持ち帰ったため | 4. 日本独自の国風文化が広まり、海外との交流を断って国内の伝統工芸を保護したため |
|--|--|---|---|

問7 奈良時代、日本の僧からの要請を受け、遣唐使の船を利用して5度の渡航失敗や失明という苦難を乗り越えて来日した唐の僧侶は誰ですか。来日後は正式な仏教のルールである「戒律」を伝え、後に唐招提寺を建立しました。

(2026年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 鑑真 | 2. 行基 | 3. 最澄 | 4. 空海 |
|-------|-------|-------|-------|

問8 奈良時代の聖武天皇の時代、唐から鑑真を日本に招いた歴史的な背景と目的として、最も適切な説明はどれですか。

(2026年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 唐の最新の土木技術や灌漑技術を日本に導入し、全国的な社会インフラの整備を促進させるため | 2. 比叡山に延暦寺を建立し、新しい都である平安京の北東を守るための新しい仏教を広めるため | 3. 民衆の間で絶大な人気があったため、大仏造立のための資金や労働力を民衆から集めるリーダーにするため | 4. 僧侶が守るべき規律である「戒律」を導入することで、僧侶の資格を厳格化し、仏教による国家統制を整えるため |
|--|---|---|--|

問9 奈良時代の遺跡から発見された資料において、ある木の板に「産地・品目・送り主」の情報が記されていました。このような「木簡」と呼ばれる資料から読み取れる、当時の社会の様子や仕組みに関する説明として、背景や目的をふまえて最も適切なものを選びなさい。

(2024年 岐阜県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 租として徴収された米を海外へ輸出するために、港で積み荷を管理する台帳として木簡が利用されていた。 | 2. 律令国家の仕組みにより、各地の特産物を納める調や、労役の代わりに布などを納める庸が、全国から都へ集まっていた。 | 3. 仏教の教えを全国に広めるため、聖武天皇が各地の国分寺へ経典の内容を簡略化して記した木板を配布した。 | 4. 防人として九州へ派遣される農民が、自らの氏名や出身地を忘れないよう、政府が公式な身分証として配布していた。 |
|---|--|--|--|

問10 大宝律令が制定された当時の政治の仕組みについて、中央官制の特徴として正しい説明はどれですか。

(2016年 岩手県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---------------------------------------|
| 1. 幕府の最高役職として執権が置かれ、有力な御家人による合議制が行われた。 | 2. 三権分立に基づき、立法・行政・司法の各機関が完全に独立して設置された。 | 3. 地方を治めるために、中央から派遣された有力な武士が守護として各令制国を統治した。 | 4. 神事をつかさどる神祇官と、政治全般を統括する太政官の二官が置かれた。 |
|--|--|---|---------------------------------------|

問11 奈良時代の律令制度において、土地と民衆は国家のものであるという「公地公民」の原則に基づき、戸籍に登録された6歳以上の男女に与えられた土地を何と呼びますか。

(2024年 石川県公立入試 類似)

- | | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 1. 佃 | 2. 口分田 | 3. 墾田 | 4. 名田 |
|------|--------|-------|-------|

問12 奈良時代には、遣唐使によって唐の文化だけでなく、西アジアやインドなどの文物が日本に伝えられました。聖武天皇ゆかりの品を収める正倉院の宝物には、インドを起源とし中国で製作された「螺鈿紫檀五絃琵琶」や、西アジア起源のガラス製品である「瑠璃環」などが含まれています。このような、当時の日本が世界各地の文化の影響を受けていたことを示す文化の特色を、どのように表現しますか。

(2023年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------|------------------|-----------|-------------|
| 1. 仏教を排除する傾向 | 2. 武士の好みを反映した力強さ | 3. 国際的な性格 | 4. 日本独自の国風化 |
|--------------|------------------|-----------|-------------|

問13 古代の日本において、対馬や北九州の沿岸部に「防人」が配置された主な理由として、歴史的背景をふまえて最も適切なものはどれですか。

(2017年 神奈川県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 1. 白村江の戦いで敗北後、唐や新羅の侵攻に備えるため | 2. 蝦夷（えみし）と呼ばれる東北地方の人々の反乱を抑えるため | 3. 種子島に伝来した鉄砲の技術が外部へ流出するのを防ぐため | 4. 元寇によるモンゴル帝国の襲来を未然に防ぐため |
|-----------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 中央から派遣された国司が、地方豪族から任命された郡司に命令を伝え、さらに里長などを通じて民衆に伝達された。	律令国家では、全国を「国・郡・里」という行政単位に分けて統治しました。中央集権的な支配を強めるため、都からは貴族が「国司」として各地方へ派遣されました。しかし、現地の細かな実情を把握する必要があったため、古くからその土地を支配していた「地方豪族」を「郡司」に任命し、国司の指揮下で実務を担わせる二段構えの体制をとりました。守護や地頭は鎌倉時代以降、代官は主に江戸時代の役職であるため、律令制度の説明としては不適切です。
問2	答え 4 天平文化と呼ばれ、正倉院にはペルシャ風の器物などの国際色豊かな宝物が納められた。	聖武天皇は仏教による国家の平安を願い、東大寺の大仏造立や全国への国分寺・国分尼寺の設置を命じました。この時代の文化は「天平文化」と呼ばれ、遣唐使の往来によって唐の文化が直接流入したほか、正倉院の宝物にはギリシャやペルシャ、インドに起源を持つ文様や器物が含まれており、当時の日本が国際的なネットワークの中にあったことを示しています。
問3	答え 2 全国への国分寺・国分尼寺の建立と、東大寺での大仏造立	聖武天皇は、地方の行政単位である各「国」に国分寺と国分尼寺を建てることを命じました。そして都の東大寺に巨大な仏像（大仏）を造立することで、中央から地方まで仏教の力を行き渡らせ、国家の平安を祈願しました。これは貴族の権力誇示や外交交渉の円滑化が主目的ではなく、宗教的な権威による社会の安定を目指したものでした。
問4	答え 4 聖武天皇	奈良時代の聖武天皇は、疫病や社会不安から国を守るために仏教を深く信仰し、東大寺に大仏を造立するとともに、全国各地に国分寺・国分尼寺を建てました。この時代に栄えた国際色豊かな文化を天平文化と呼び、聖武天皇の愛用品などが納められた正倉院の宝庫は、シルクロードを経由してもたらされた大陸の文物が現存していることで世界的に知られています。桓武天皇は平安京への遷都、推古天皇は飛鳥時代の政治、後三条天皇は摂関政治を抑えた親政で知られる人物です。
問5	答え 2 古事記	奈良時代の初期、律令国家としての体制を整える過程で、国家の成り立ちを体系化する必要が生じました。天武天皇の発案により、稗田阿礼が読み上げた伝承を太安万侶が記録する形でまとめられたのがこの歴史書です。神代から推古天皇までの出来事が記されており、同時期に編纂された『日本書紀』とともに、天皇による支配の根拠を裏付ける重要な役割を果たしました。
問6	答え 3 遣唐使が、唐の都である長安に集まっていた西アジアや中央アジアの文物を日本に持ち帰ったため	天平文化が国際色豊かになった背景には、遣唐使の派遣があります。当時の唐の都・長安は、シルクロードを通じて西アジアやインドなど世界各地の文化が集まる国際都市でした。遣唐使がこれらの文化や制度を日本へ持ち帰ったことで、日本でも国際的な性格を持つ文化が花開きました。
問7	答え 1 鑑真	当時の日本では、僧侶になるための公的な基準が曖昧であり、税を逃れるために勝手に僧を名乗る者が増えるなどの問題がありました。そこで、唐から正式な「戒律」を授けることができる高僧として招かれたのが鑑真です。彼は度重なる遭難で視力を失いながらも、不屈の精神で来日を果たし、日本の仏教制度の整備に大きく貢献しました。
問8	答え 4 僧侶が守るべき規律である「戒律」を導入することで、僧侶の資格を厳格化し、仏教による国家統制を整えるため	聖武天皇は仏教の力で国を治める「鎮護国家」の思想を進めましたが、当時は正式な授戒（戒律を授ける儀式）を行える僧がいませんでした。鑑真を招くことで、国が認めた僧侶のみが活動できる仕組みを作り、仏教の秩序と質を向上させることが当時の政府の狙いでした。なお、民衆への布教や社会事業で知られるのは行基です。
問9	答え 2 律令国家の仕組みにより、各地の特産物を納める調や、労役の代わりに布などを納める庸が、全国から都へ集まっていた。	律令制度の下では、地方の負担として「租・庸・調」が定められていました。このうち、土地にかかる「租（米）」は地方の倉庫に貯蔵されましたが、「庸（布など）」や「調（特産物）」は、負担者が都まで自力で運ぶ決まりでした。木簡に産地や品目が記されていたのは、都に到着した際に、どの地域の誰が義務を果たしたかを正確に管理するための仕組みが整っていたことを示しています。
問10	答え 4 神事をつかさどる神祇官と、政治全般を統括する太政官の二官が置かれた。	日本の律令制度は唐の官制（三省六部）を参考にしつつ、独自の工夫が加えられました。祭祀を重視する日本の伝統から、神事を行う「神祇官（じんぎかん）」を、一般行政を行う「太政官（だいいじょうかん）」と並ぶ高い地位に置いた「二官八省（にかんはっしょう）」の体制がとられたことが大きな特徴です。
問11	答え 2 口分田	律令制度のもとでは、全ての土地と人民を天皇が支配するという公地公民の原則がとられていました。これに基づき、班田収授法によって戸籍に登録された人々に一定の土地が割り当てられ、収穫の約3%を「租」として納める義務が課されました。この土地は本人の死後に国へ返還することとされていました。
問12	答え 3 国際的な性格	奈良時代、日本は唐の進んだ制度や文化を学ぶために遣唐使を派遣しました。当時の唐はシルクロード（絹の道）を通じて西アジアやインドとも活発に交流しており、世界各地の文物が集まる国際的な都市でした。それらが遣唐使によって日本に持ち込まれたため、正倉院の宝物に見られるような、世界各地の要素を併せ持った文化が形成されました。
問13	答え 1 白村江の戦いでの敗北後、唐や新羅の侵攻に備えるため	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた日本（倭）は、大陸からの報復や侵攻の危機に直面しました。これに対抗するため、九州の外交・軍事の拠点である大宰府や、その周辺の沿岸部を警備する必要が生じ、防人の制度が整えられました。